明善同窓会 関東支部 会報

発　行：
明善同窓会関東支部会報委員会
事務局：
ジー・エフ税理士法人内
102-0093 千代田区平河町2-8-10
平河町宮川ビル5階（宮沢宛）
e-mail : meizen.dosokaikanto@gmail.com
http://jinnryoku.com

ご挨拶

関東支部会長　昭和51年卒　井上　樹彦

令和の時代になって初めての春を迎え、明善同窓会関東支部の皆様には益々ご健勝のことと存じます。昨年の総会で瀬戸渡会長の後を受けて関東支部会長に就任いたしました。昭和54年の第一回総会から41年、数多の大先輩が育み築かれた関東支部を皆様方と共に更に充実、発展させていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

就任にあたり記念誌「関東支部の歩み」を読み返しました。そこには故郷から遠く離れても、長い歳月を経ても、全く変わらない母校への愛情と、同じ校舎やグラウンドで人生の最も多感な時期を過ごした者同士の切ろうにも切れない縁やつながりがありました。

昨年末、ラグビー日本代表と共に紅白のステージに立った松任谷由実さんは「思い出は未来に目をつむるものではなく、明日を生きるためにあるのです。明日へ一歩を踏み出すために、思い出から力をもらうのです」と言っています。その通りだと思います。

明善を卒業して44年、夢や希望を抱いて前だけを見ていた高校時代の思い出や友たち、そしていつも変わらずにあった筑後川や耳納の山々の風景に何度救われ励まされ、力をもらったか分かりません。同窓生の中には人生の後半戦に入った人、情報の洪水の中で道標を探している人など様々な境遇の人がいるでしょう。関東支部はそんな人たちの心の拠り所になれればと思っています。

もう一つの大きな役割は、これからの社会や国を担う若き後輩たちへの応援です。昨年8月1日、明善高校総合文科コースの一年生30人が大学訪問研修で東京にやってきました。校長先生の依頼を受けて20代から40代のＯＢＯＧが参集し、勉強と部活の両立、勉強の目的、仕事とは何か、東京で学び働くことの意義などについて話をしました。柔らかな生徒たちの心に母校の先輩たちの言葉や思いがしみ込んだことでしょう。故郷や日本の将来のためにこんな活動に力を入れたいと思います。

5月17日（日）の34回目の関東支部総会に向けて、平成4年卒の皆様の手で着々と準備が進んでいます。高校時代のように一致団結してこの一大イベントを成し遂げることで同期の絆と友情は深まるに違いありません。そして関東の総会ならではの、まだ久留米の匂いが残る大学新入生たちの挨拶も予定されています。

41年前の第一回総会では明善が生んだ作曲家、中村八大氏が記念演奏を披露しています。代表曲「上を向いて歩こう」はアジアで最初のオリンピックへ向かう当時の日本国民に勇気と元気を与えました。いよいよ二度目の東京五輪が迫ってきました。皆で一緒に上を向いて新しい時代を進んでいきましょう。

ご挨拶

校長　内田　武文

会長井上樹彦様、前会長瀬戸渡様はじめ、明善同窓会関東支部の皆様には、日頃から本校並びに、後輩である生徒に対して、関東の各地から温かい御支援を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年、本校は記念すべき県立移管140年目を迎え、10月19日（土）に創立140周年記念式典を挙行いたしました。多くの御来賓、同窓会、保護者の皆様に御臨席賜り、厳粛な中にも盛大な式典を実施できたことを御報告させていただきます。井上会長には御多用の折、遠路遥々御出席を賜りました。ここで改めてお礼申し上げます。

昨年、本校は記念すべき県立移管140年目を迎え、10月19日（土）・19日（日）に創立140周年記念式典を挙行いたしました。多くの御来賓、同窓会、保護者の皆様に御臨席賜りまして、厳粛な中にも盛大な式典を実施できたことを御報告させていただきます。井上会長には御多用の折、遠路遥々御出席を賜りました。ここで改めてお礼申し上げます。

また、部活動についても、2学期の終業式終了後、県大会、九州大会、全国大会等の表彰式を行いましたが、各部活動の活躍により、表彰対象者があまりに多く、一人一人を表彰することができないほどでした。本校の真髄とも言うべき文武両道は、今も脈々と受け継がれていることも併せて御報告させていただきます。

最後になりましたが、私は本年3月をもって退職いたします。改めてこれまで関東支部の皆様から賜りました御恩に感謝申し上げます。そして、明善高校は新たな校長を迎え、校訓「克己・盡力・樂天」のもと、次の創立150周年に向けて、職員・生徒一丸となってさらなる一歩を踏み出してまいります。皆様方におかれましては、引き続き母校、そして後輩達へ御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

明善校創立１４０周年を迎えて

同窓会会長　昭和50年卒　内村　直尚

明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

また、令和最初の大同窓会が令和元年10月12日に昭和59年卒の当番幹事の皆様により「逢いに行こう～友に母校にあの頃の自分に～」のテーマのもと開催されました。新たな時代の節目の大同窓会で、多くの来賓の皆様、恩師の先生方、関東支部を始め、多くの同窓の方々のご出席をいただき、盛大に開催することができました。参加者一人ひとりの心の中にある「あの頃」に戻っていただくひとときを演出していければ、との思いで、鑑賞型アトラクションは実施しないで、参加者全世代に対するおもてなしを心がけることを基本方針と定め企画されており、田中久雄実行委員長をはじめ、当番幹事の皆々様のご努力のおかげで心のこもった温かい大同窓会を開催することができました。

さて、明善高校の歴史をたどれば、天明３年（１７８３年）に開設された久留米藩の学問所を始まりとして、ゆうに200年を超える長い伝統を誇ります。昨年の10月19日に、県立学校移管を記念して、「明善校創立140周年記念式典」が、多くのご来賓をお招きして盛大に行われました。記念式典では、多くの方々からご祝辞をいただきました。また、引き続き行われた記念講演では、本校の卒業生で、フライトドクターとして活躍されている救急救命医の本村友一様からご講演をいただき、貴重なお話を伺うことができました。この記念式典の行事を通して、本校の歴史と伝統の重みを改めて実感させられました。

今、日本そして世界に目を向けると、日々、様々な課題が生じ、人間社会が協力しあい、知恵と力を結集して取り組むべき時代を迎えようとしています。そのような時代であればこそ、人とのつながりを大事にして全力で立ち向かうという明善の伝統の下、様々な課題に果敢に挑戦していきたいと思います。母校明善高校も新しい時代へと進んで行きますが、己に打ち克つ、力を尽くす、その結果、楽天の境地に至る、この「克己・盡力・樂天」の校訓を今後も心に刻み同窓生一同で共有していく所存です。

今後は創立150年に向かって、同窓会会長として明善同窓会および明善高校の更なる発展に少しでも寄与出来るよう励んで参る所存です。至らない点も多々あろうかと存じますが、会長を始め同窓会関東支部の役員の皆様、会員の皆様には引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。

第53回明善大同窓会のご案内

第53回実行委員長　昭和60年卒　諸冨和馬

○日時　２０２０年10月10日（土）14時30分開会
○場所　ホテルマリターレ創世　久留米
○テーマ「～逢って、笑って、気持ちは青春時代～」

明善同窓会関東支部の皆様、こんにちは、今年の大同窓会は、私共明善60会が担当致します。どうぞ宜しくお願い致します。

明善高等学校は創立140周年を迎え、久留米藩の学問所から数えると237年のとても歴史のある伝統校です。近年は福岡県でトップクラスの優秀な学校として多くの卒業生を輩出しております。これは現役の生徒、教職員の方々、そして多くの先輩・後輩の方々のお蔭だと感謝しております。その素晴らしい歴史のなかで我々60会の担当が２０２０年東京オリンピックの年にそれも10月10日（昭和39年東京オリンピック開会式の日）に開催できるというなにかの縁を感じずにはいられません。また、10月10日は過去の気象記録の中で日本の晴天の確立が一番高い日と言われています。きっと皆さまの力で快晴の中、笑顔で逢えるでしょう。大同窓会担当の年が無かったら、一生会えずに終わる仲間も数多くいたと感じます。担当する年度に近づくたびに懐かしい仲間が増え、多くの笑顔が溢れ、皆と会うのが楽しみになっていきました。そこで60会も歴々の先輩方が開催されてきた「明善大同窓会」を60会らしく、楽しく、笑顔で企画・実行してゆきたいと思います。

今年は、テーマを「～逢って、笑って、気持ちは青春時代～」としました。明善大同窓会は絆とその伝統が53年もの長きにわたり先輩方から赤い襷で繋がれて参りました。この繋がり出逢うたびに昔の思い出が甦り、笑顔に包まれ、心は自然に17歳に戻ってしまうことがたくさんあることと思います。今回ご参加頂く方達も青春時代に戻って楽しんで頂きたいと思います。先輩から引継ぎを受けた際には、「同窓生で仲良く楽しんで進めて行ってください」と激励のお言葉を頂き、我々も楽しんで歴代の先輩に感謝しながら、成功に導きたいと思います。精一杯お世話をさせて頂きたいと思っております。

関東支部の皆様、高校時代の甘酸っぱい、また、辛かった思い出話を故郷久留米の街で語り合いましょう。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

関東支部報告

○支部役員

会長	井上　樹彦	(S51)
副会長	土肥　義政	(S31)
	内田　直人	(S51)
	古賀　啓子	(S41)
代表幹事	山口　務	(S45)
副代表幹事	友池　哲雄	(S51)
事務局長	古賀　尚之	(S45)
副事務局長	五十嵐恵美子	(S47)
ゴルフ委員長	井手　秀明	(S60)
U30委員長	伊東　美晃	(S55)
監査役	尋木　浩司	(S61)
	田嶋ひと信	(H3)
顧問	泉　也成	(S31)
	古賀　一成	(S41)
	古賀ゆきひと	(S53)
	大久保　勉	(S54)
相談役	松平　信之	(S31)
	別府　秀喜	(S41)
	瀬戸　渡	(S44)

（2020年3月1日現在）

○2019年の主な活動

1月11日（金）久留米同郷会新年参拝・賀詞交歓会（東京水天宮）
4月20日（土）第19回明善コンペ（葉山国際CC）
5月19日（日）関東支部総会･懇親会（東海大学校友会館）
9月14日（土）明善学生の会（麹町）
9月25日（水）第20回明善コンペ（サミットGC）
10月12日（土）明善大同窓会（久留米市、ホテルマリターレ創世）
10月16日（水）くるめつつじ会総会・懇親会（アルカディア市ヶ谷）
11月９日（土）第12回秋明野球部対抗戦（八王子市、東京海上日動総合グランド）
12月５日（木）関東支部望年会（神保町）（忘年会ではなく望年会です）

・支部幹事会　第4木曜日に開催　1月24日、2月28日、3月28日、4月25日、6月27日、9月26日、10月24日（池袋サンシャイン60、小樽商科大学同窓会館）
・東京高牟礼会（久留米市内高校の在京同窓会交流会）の各校同窓会への出席
・東京高牟礼会活動へ役員参画（総会、ゴルフコンペ等）
・東京福岡県人会活動へ役員参加（総会、交流会等）

○お願い

1．各学年幹事、副幹事の選任と支部幹事会への出席
2．支部会員拡大にために同級生、後輩等への参加勧誘
3．学生はじめ20から30代の若手会員交流のためのU30会への積極的参加。
　U30会とは、Under30、あるいは、うちら30代、の若手同窓生が中心の交流会です。

ツーリングの醍醐味を求めて35年

昭和41年卒　井手正明

37歳の時にバイクの免許を取り、子供の頃からのあこがれだったライダーになって早や35年経ちました。元々不安定なバイクを乗りこなすには、ブレーキ／アクセル／ハンドルのみならず、体重移動や車体を傾けるテクニックも必要です。これらのテクニックを駆使して四季折々の風を直接肌に感じながら高原や海岸沿いのコーナーを走り抜ける醍醐味は何物にも代えがたいものがあります。この醍醐味は、例えば登山や乗馬などのアウトドアスポーツとも合い通じるのではないかと思います。

通常は5、6人の元職場の仲間と連れ立って無線での会話も楽しみながら近場を走る1泊2日のツーリングで走行距離は400kmくらいです。夏は人数も10名前後に増えて3泊4日で涼しい高原を中心に約1，５００km走ります。遠くは出雲大社／島根県（約1，８００km走行）や薬研温泉／青森県（約1，９００km走行）まで足を延ばしたこともあります。

愛車 Honda Deauville と共に　浄土平磐梯吾妻スカイライン

ツーリングには毎回と言っていいほどハプニングが起こります。バイクの取り回し中や止まろうとする時にバランスを崩して倒れるはかなりハードですが安全第一で走破し、最後に我が母校明善を訪ねて、「楽天」の心で続けることが出来たらライダー人生を感謝して終えられたら最高だなと思うこの頃です。

閉め忘れて走行中に帽子を飛ばしたり、等々で笑い種はつきません。時には後で命拾いした、と思うようなハプニングもいくつかありました。中でも忘れ難いのは55歳で大阪勤務時代の11月某日、大阪を出て兵庫県の赤穂城経由で岡山県の湯原温泉に向かう峠越えの細い道を走った時です。途中から季節外れの雪が降り始め、峠道を越える頃には10cmを超える積雪になりました。こうなるとブレーキも効かないので車が来たら衝突は避けられません。恐怖と闘いながらのトロトロ運転、なんとか全員そろって無事峠を越えた時は抱き合って喜びました。たどり着いた宿の人によると我々が通ってきた道は通行止めになっていた由。気づかず通った我々も迂闊でしたが、どおりで車が来なかったな、と幸運を天に感謝した次第です。

そんな幸運にも恵まれて、いつのまにか累計約12万km、地球3周分ぐらい走ってきました。日本中を走り回った、と言いたい所ですが、実は、我がふる里の久留米、福岡県、九州だけはまだ走れていません。3年前の企画は熊本地震で中止に追い込まれました。やまなみハイウェイを筆頭に霧島高原道路、雲仙スカイライン、等々走りたい道がたくさんある九州…。主だったところを走破しようとするだけでも7日はかかるロングツーリングになります。既に古希を超えた老体になると新潟高校のグラウンドに集まり、歴史ある新潟高校ラグビー部ＯＢ中心の「ラガービアーズ」と一緒に、海岸に面した松並木でのランニング、ストレッチの後にグラウンドで練習した。その練習はやはり厳しく、きつい練習、新潟の冬の冷たい雪の降る中で泥んこになってチーム全員で練習したのは今でも良い思い出だ。チーム名も「エレガンスビー」と名付け、半年後には新潟市内のラグビーチームと試合を組めるまでになり、その後新潟市のラグビー連盟の末席に加えてもらうことが出来た。結成当初は私も左プロップとして何とか試合に出場していたが、なんせ齢40を過ぎたころから、若い連中（他のチームは殆どが20代、30代中心）に伍していくのは難しくなり応援に回った。しかし、練習と試合を通してボールを奪い合う時の体と体の激しいぶつかり合いや、互いの激しい息遣いはこの歳になっても忘れることが出来ない。試合後みんなとのビールは「この世で一番うまいもの！」と叫びたいくらいだった。新潟にいた8年半の間、草ラグビーといえどもラグビーを通して、素敵な仲間に出会えたことは私の人生で本当に得難い経験だった。

今でも「エレガンスビー」のメンバーとは交流を続け、新潟出張の時はメンバーの誰彼となく「ジンロック」に集まり杯を重ねている。今の「エレガンスビー」のないような力が溢れてくる、授業が終わると次の体育授業が待ち遠しいという感覚を覚えた。又、ラグビーのクラスマッチもありその魅力に取りつかれ、ラグビー部の諸君に羨望をも感じた。

その後大学、社会人になりラグビーの試合がＴＶ放映されると必ず観戦しながら、「若いときラグビーをやっていたらな…」とか「機会があればラグビーをやれないかな?」いう気持ちも、どこか心の隅に感じていた。ところが社会人になって十数年後に思ってもいない転機が訪れた。昭和62年の10月に新潟に転勤、翌年の6月、たまたまなじみになっていた新潟古町「ジンロック」というバーで、マスターと常連の新潟高校ラグビー部ＯＢのM君、Y君と飲んでいる時、M君が「毎晩、毎晩酒ばっかり飲んでいたら体に良くない、週に一日だけ飲むのを止めよう、それには日曜日に激しい運動をやれば前日の土曜日は飲めないはずだから、常連を集めてラグビーチームを作って練習しませんか?」との話があり、私は既に38歳、マスターもその仲間も私より2歳若い36歳でラグビーをやろうとしているので、思わず「高校時代に体育授業でラグビーをやったことがあるけど…」と言ったところ、M君「是非、一緒にやりましょう」と、その場でチームに参加することになった。それからというもの日曜日9時になると新潟高校のグラウンドに集まり、歴史ある新潟高校ラグビー部ＯＢ中心の「ラガービアーズ」と一緒に、海岸に面した松並木でのランニング、ストレッチの後にグラウンドで練習した。その練習はやはり厳しく、きつい練習、新潟の冬の冷たい雪の降る中で泥んこになってチーム全員で練習したのは今でも良い思い出だ。チーム名も「エレガンスビー」と名付け、半年後には新潟市内のラグビーチームと試合を組めるまでになり、その後新潟市のラグビー連盟の末席に加えてもらうことが出来た。結成当初は私も左プロップとして何とか試合に出場していたが、なんせ齢40を過ぎたころから、若い連中（他のチームは殆どが20代、30代中心）に伍していくのは難しくなり応援に回った。しかし、練習と試合を通してボールを奪い合う時の体と体の激しいぶつかり合いや、互いの激しい息遣いはこの歳になっても忘れることが出来ない。試合後みんなとのビールは「この世で一番うまいもの！」と叫びたいくらいだった。新潟にいた8年半の間、草ラグビーといえどもラグビーを通して、素敵な仲間に出会えたことは私の人生で本当に得難い経験だった。

今でも「エレガンスビー」のメンバーとは交流を続け、新潟出張の時はメンバーの誰彼となく「ジンロック」に集まり杯を重ねている。今の「エレガンスビー」

私とラグビー

昭和42年卒　長岡　健

令和元年はラグビーワールドカップ開催、予想を覆す活躍もあり日本中が湧きに沸いた年でもあった。のベストエイト進出、それも強敵のアイルランド、スコットランドを破っての快挙、日本ラグビー界のみならず、我々に与えた感動と、影響は計り知れないものがあった。かくなる私も人一倍にこの喜びをかみしめた一人だ。

ラグビーとの出会いは明善高校2年の2学期だった。当時の体育授業は1年生は夏まではバレーボール、2学期からはサッカー、2年生になるとバスケットボール、そして2学期からはラグビーという構図だったので、ラグビーというのは確かに男同士が激しくぶつかりあい、見る者にとって非常に面白いスポーツ、ただ私にとってはただ観戦するものとの意識があった。ところが授業といえどもひとたびあの楕円球（授業ではもっぱらゴムの楕円球）に触れると、何かしら大人びて、今まで経験したこと

は新潟でのアマチュアラグビーのトップグループにいて、創設メンバーの一員としてもこの上ない喜びだ。自宅の居間には新潟を去る時に貰った「エレガンスビー」創立メンバーの写真があり、「また、ジンロックで飲もうよ」と囁いているようだ。この素敵な出会いも明善にその根っこがあった。

茫々70年

昭和43年卒　近藤洋太

私が詩に関心を持ったのは、高校2年の秋、現代国語の永田茂樹先生の授業で、中原中也の「曇天」を知ったときのことだ。私は天文部に所属していて、天体観測に熱中していたのは事実だが、一方で「自分が存在することの不安」にさいなまれていて、部室をシェルター替わりに使ってもいたのだ。「旗は　はたはた　はためく　ばかり、／空の　奥処に　舞ひ入る　如く」。「曇天」の不安、不穏なリズムは、逆に私には心地よかった。その日のうちに書店で文庫本の『中原中也詩集』を買い、むさぼるように読み、模倣した。

1年浪人した折、私は小さな詩集を作って永田先生に渡した。思いがけないことに数日して、彼から主宰する詩誌「歩道」に勧誘する葉書が届いた。私は有頂天になった。永田先生は、私にものを書くきっかけを与えてくれたのだ。しかし大学時代から、詩では食べていけないことを知っていたから、公的医療保険の会社に就職した。1日24時間は会社と家族のため、文学は25時間目からと割り切った。

今、私は近くの大学で非常勤講師をしている。週2日3コマのうち、ひとつは3年、4年生の2年持ち上がりのゼミを持っている。知り合った学生もまた、それぞれが今日という時代のなかで「自分が存在することの不安」を持っている。彼らに寄り添う、なんてことは私にはとてもできない。彼らの話に耳を傾けて、自分が不安をどのように手なづけ、やりすごしてきたかを話すだけだ。

ところで現役を退いて10年の間に、遅筆の私にしては驚くべきことに5冊の詩集、5冊の評伝、評論集を出すことができた。3コマの授業も含めて、24時間、文学や思想のことを考えてよい環境になったこともあるが、なによりも学生たちと接するなかで、彼らが私に書く活力を与えてくれたのだと思う。今度、私が師事した福岡出身の作家で俳人の眞鍋呉夫生誕100年記念出版として編集に携わった『眞鍋先生――詩人の生涯』（ともに書肆 子午線刊）が同時に出版された。眞鍋呉夫は72歳で『雪女』（藤村記念歴程賞、読売文学賞）を出し、89歳で『月魄（つきしろ）』（蛇笏賞、日本一行詩大賞他）を出して、92歳で他界した。彼の俳句は「文人俳句」の域をはるかに抜け出ている。ひとつひとつが1篇の小説のように読めるのだ。関心のある方は、手にとっていただきたい。

69会発足30周年と古希を迎えて

昭和44年卒　髙島隆明

明善同窓会関東支部の皆様、ご無沙汰致しております。在学中は剣道部に所属していましたので見覚えの方もおられるかと存じます。

さて今年は、我々44年卒の69会発足30周年とメンバーが『古希』を迎える年です。思い起こせば、我々69会が発足したのは1990年、メンバーが40歳となる年で、男子にとっては仕事が軌道に乗って来た頃、女子にとっては、子育てがひと段落した頃で、皆が故郷を懐かしく思う頃、そして少し気持ちに余裕が出来た時期でありました。当時、噂では小グループで集まっているメンバーもいましたが、全体の同期会が無かったこともあり、瀬戸君と私とで騒ぎ始め、幹事を澤君（故　元NTTコムウェア副社長）にお願いし、原宿のイタリア料理店で開催したのが第一回と記憶しております。

其れから30年、当時40歳だった私たちも古希を迎える歳となりました。私たち69会メンバーも明善を卒業し、はや50年が過ぎました。今思えばあっという間の半世紀でした。

令和元年11月23日、私たち69会は『古希の集い』を同窓会副会長の空閑君の音頭で神戸のクルーズ客船の中で執り行いました。この企画に集いし50年前の若者は総勢36名。

当日は午後3時に集合し神戸メリケン波止場を午後4時に出航する神戸港一周ディナー・クルーズ。会場は宴会場と広いリアデッキがセットになった部屋で、晴天、無風、気温19℃という絶好のコンディションの中、穏やかな明石海峡の夕日を眺めながら50年前の素敵な美女の方々と素敵な会話と食事とお酒の充実した2時間でした。

神戸クルーズ船上にて

思い起こせば還暦の年に九州、関西、東海、関東、ロサンゼルスから男女総勢69名（正に69会）が新幹線名古屋駅に集合し、高校3年以来のバス旅行に始まり、伊勢神宮では多田君（梨木神社代表役員宮司）の口利きで、内宮の奥で全員拝礼してから9年。

今回の『古希の集い』は、皆さん既に子育ては終了し、お孫さんも生まれ、仕事もひと段落し、これから人生の後半戦を如何に過ごしていくかという人生の節目の記念すべきスタートの日でもありました。

還暦から9年、その会話の中には還暦の時には無かった、親、子供、孫、家、墓守といった終活のキーワードが話題になっていました。会って暫くは高校時代の青春の思い出に浸っていましたが、時間が経つにつれ、これから先の人生についてと話題が変化していました。

9年前、伊勢神宮内宮からバスに戻る参道で50年前の美女から「髙島君、ここに皆で来れるのは古希の時だよね?その時はこの中で何名が元気にこれるんだろうね?」…と言われた事が蘇り「そうだ!あの時の参加者は69名、そして今回は36名。およそ半分になった…次回の『喜寿』では何人が元気に会えるのだろうか?」と呟いた。思えばあれから何人の仲間が旅立っただろうか?ここ2、3年だけでも高校時代によく遊んだ仲間がバタバタと亡くなった。私たち69会メンバーも自然の道理で、これからは櫛の歯が欠ける様に少なくなっていくでしょう。しかしながら私たち69会メンバーは明善の校訓『克己・盡力・樂天』の教えのとおり、今まで東京という見知らぬ土地で、怠けずに己の力を尽くし悔いのない人生を過ごし、70歳という年を迎える事が出来ました。これからは、天命に従い、仲間と楽しく過ごしていける会として20年いや30年続けていけるよう69会メンバー全員、頑張ります。

これからも69会に皆様の温かいご支援賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

追伸：前回の寄稿は『還暦』の時でした。今回も『古希』と何かのご縁と思い寄稿させて頂きました。また今も還暦の時と同様、幹事の労を引き受けて頂きました空閑君には、参加者に代わり改めて感謝申し上げます。

新年会を練った令和元年忘年会

昭和45年卒　宮内　彰

昭和45年卒による令和2年新年会の打合せを兼ねて、令和元年の忘年会を12月26日に少人数で行った。参加者の交通の便を考えて、打合せの場所を神奈川県の大和市とした。大和駅は小田急線、相模鉄道線が交差する交通の便が良い場所である。

会場は大和駅のすぐ近くにある「月あかり」という居酒屋であった。開始予定時刻の午後5時以前に到着したメンバーも数名いたらしいが、お店の開店時刻が午後5時ということで入店を断られたため駅前広場にて待機せざるを得ず、年末の寒さが身に沁みた。開始時刻となってやっと暖かい店内に入ることができ一息ついたのであった。2時間の飲み放題コースをお願いして飲食をしながら、高校在学時代からフルートを演奏し現在横浜交響楽団に在籍するメンバーや、現在楽器の練習をしているメンバーもいて楽器演奏の話題に花が咲いたり、令和元年初めの膝の手術を行ったあと、最近になってリハビリを兼ねた山歩きのときの指骨折にもめげずスキーを頑張ろうとしているメンバーの話題など、いろいろな話題で楽しい時間を過ごすことができた。

令和元年忘年会

年明けの新年会を2月に行うこととし、日程については参加者の都合を山口幹事が確認調整することとした。開催場所については、メンバーの現役時代の勤め先関係レストランにて、フレンチのコース料理がいただけないか確認してみるなどの案が出た。

懇親会のあとは、二次会を居酒屋の隣りにある「餃子の王将」で行った。酔いのためかグラスを割ってしまいお店にお世話をおかけしたトラブルもあったが、2月の新年会を楽しみにして、無事に忘年会を終了することができた。

くるめつつじ会からのお知らせ

「くるめつつじ会」とは、久留米市にゆかりのある在京の方々の親睦会で、毎年10月に総会・懇親会を開催し約150人が参加されています。

昨年は、芸能界でご活躍中の、石橋凌さん（久留米市出身）の講演の後、懇親会では、地酒の試飲や特産品等が当たる抽選会など多彩な催しで大いに盛り上がり、また多くの芸能人の方々もご出席で、郷土への思いなどの語らいも深まりました。

今年は次のとおり開催を予定。

【予定】
○日時　10月14日（水）18時～
○場所　アルカディア市ヶ谷

地元新鮮野菜等お土産品も多数。皆様の参加をお待ちしています。

また、久留米市のイベントやトピックスなどをお知らせする「久留米つつじ会メール」を配信しています。ご登録はメール又はお電話にて。

お問合せ　くるめつつじ会事務局（久留米市東京事務所内）
電話03（3556）6900
tokyo@city.kurume.fukuoka.jp

皆でつつじ音頭を演じる

明善46会報告

昭和46年卒　本村龍史

明善46会の活動は例年通り、春の旅行として5月11日（土）12日（日）に長野県野沢温泉へ出かけました。所在地の名称は「野沢温泉村」と村の名前にも温泉と入っています。また野沢菜漬け発祥の地として有名ですが、大昔からの温泉地で、幹事の私が一度も行ったことが無かったため、皆行ったことが無いだろうと思っていたのですが、当日移動中、何人もが「学生時代以来だ。」とか「久しぶり。」だとか言い出しました。よく聞いてみると、初めてのスキー体験地だとか、学生時代の合宿地だったり、夏休みや冬休み期間のアルバイト地であるとかだったようです。野沢温泉は小さな温泉宿が坂道の狭い路地に連なっています。また13か所もの外湯が有り、村人の共有財産だそうです。私はその外湯を3か所巡ったと思いますが、さてそれが何処だったか…最初に入ったのが確か「河原の湯」…。「大湯」そんな名だったよな…。「熊の手洗い湯」地元の人と話したとき間違いなく勧められたよな…。そのうちの一つは熱すぎて湯船に入る事も出来ませんでした。地元の人はこれに浸かるのか？嘘だろう！地元の人達と話しながら宿に戻ると、他の参加者は当然宿で酒盛り。とは言え歳を重ねた証拠に解散時刻が12時前になりました。以前だったら考えられない早さです。

翌日は小布施の町へ。小布施といえば栗と葛飾北斎。最初に北斎の天井繪がある「岩松院」へ行き、有名な「八方睨み鳳凰図」をご住職のお話を聞きながら鑑賞しました。次は栗、特に落雁は有名で子供の頃、私が食べたお盆の時の落雁とは別物です。お土産にたくさん買いました。昼時になったので、私が「前回の時はあそこのソバ屋で食べたけど今日も…」と言い出したところ、「初めて来た」と言い出され、「そんな筈ない、大盛りを頼んだら多すぎたろが？」しかし、「46会では来とらん。」と皆から非難轟轟。私自身小布施は5～6回目で誰と来たか分からなくなっていたようです。50年前の記憶は鮮明なのになぁ。

秋の宴会は新宿で11月第2土曜日の9日に実施。一応5月第2土日が旅行、11月第2土曜を宴会としていますが、勿論幹事の都合で変更有です。和食の居酒屋が続いているのでシュラスコ食べ放題の店を予約したものの、残念‼一度も入ったことのない店はやはり避けた方がよさそうですね。そんな中、私達全員（同期生だから当たり前）明善高校卒業後50年という事で、海外への旅行を企画する案が出ました。東南アジアが無難となりました。韓国はやめた方が良い、中国は参加者が余り多くなさそう、という事で台湾なら近い・安い・安心となり、参加意思有かと手を上げさせたところ、そこそこ手が上がった。一応企画する事になったが本当に皆行くのだろうか？また僕が企画するのだろうか…。

3時間ほど経過しての〆後、以前だったらカラオケやの飲み直し等に残っていたのだが大多数は解散ご帰宅組。寂しく5名だけがカラオケへとなった。みんな歳を取ったのだよ67歳だもの。

野沢温泉にて

小布施にて

還暦を過ぎた令和最初の東京五一会・寄合会

昭和51年卒　令和元年当番幹事　大井　剛

昨年までは、久留米での大同窓会で還暦のお祝いをするべく、何かと理由をつけて年一回のペースで細やかな寄合を開いていた。然しながら今年は我が同級生の『井上樹彦君』が明善同窓会関東支部の会長に就任し、併せて野球部のお2人『内田君』が副会長と『友任君』が副代表幹事に就任したことも有り、今後の関東支部への協力体制のお願いも兼ねての会となった。

11月16日土曜日、開催場所がＪＲ有楽町駅の為、山手線新駅『高輪ゲートウェイ駅』関連の運休の影響を心配していたが、遠方からの出席者も含めて総勢25名での開催、我々の会長『内田君』の乾杯の挨拶から始まり、関東支部会長就任の井上会長からの今後の協力のお願いも交えて、いつものように和気藹々の会となった。

当番幹事の感想としては、還暦も過ぎ年に一回の寄合で会話は、此れ迄は家族、特に子供の就職、結婚に関する話題が多かった様だが、前回辺りからは健康に関する話題に代わってきた感じが見受けられた。歳は取りたくは無いが、確かに一年毎に歳は取っていくと痛感した。お昼12時過ぎからの開催の所為も有るが、2次会、3次会のころには、長時間の酒と話で大分出来上がった紳士も多く居たが、無事、大事も無くに解散となり、来年11月の再会を約束した。

巷では65歳までの雇用延長となっている。東京五一会も延長でここ数年、盛り上がりの勢いは消えそうに無い様子だ。

明善52会「還暦修学旅行」

昭和52年卒　古賀　毅

平成も残すところ10日余りの昨年4月19日から20日、昭和52年卒の面々48名が、「還暦修学旅行」で京都に集まり旧交を温めました。思えば昭和51年3月「京都、奈良修学旅行」の宿泊先である鴨川「石長松菊園（当時は石長旅館）」に集合、京の夜大広間で大宴会、楽しいひと時を過ごしました。

まず感動したのが午後3時の受付時に配布された35ページのガイドブック。当時の修学旅行企画委員会作成の栞（しおり）という雅な名前の冊子が世話人の方々の力作で、栞と同じ素敵な表紙のデザインと「還暦修学旅行　明善52会　みんなで京都へＧＯ」の題字が目に留まります。内容はと言えば旅館や伊勢神宮の案内が主ではあるが、前半部分は手書きの団体行動の注意事項やクラス別の新幹線座席、旅館の部屋割り表など、一気に高校時代にタイムスリップしたのは私だけではないでしょう。

さて、参加者は久留米、福岡ほか関西、中部そして我々関東と広範囲に、宴会では地区別の自己紹介。そこで絶妙なご当地話の掛け合いもあり大いに盛り上がりました。38名が参加したラウンジでの2次会では、のど自慢の紳士淑女が歌いそして踊り、往年の美少女・美少年の青春時代を彷彿させる時空を共にしました。

翌日早朝、観光バスで30名が「伊勢神宮参拝」、外宮、内宮と参拝しました。内宮前では電車移動の別動隊4名と遭遇、それも何かの巡り合わせを感じました。また、人気の「おかげ横丁」の飲食店で一同昼食、その後は散策、お土産の買物とそれぞれの旅を楽しみました。

前々日の18日、ご在位中の天皇、皇后両陛下が伊勢神宮を参拝され、退位に向けた儀式「神宮に親謁の儀」に臨まれており、神宮およびその周辺には2日前の儀式に関わる凛とした雰囲気が感じられた。なお、地元紙には「天皇が退位の報告で伊勢神宮を訪れるのは歴史上初めて。」とあります。

構想6年、実働2年におよぶ在久留米世話人の皆さんの入念かつ献身的な準備と心地よい天気、そして旅館をはじめとする日本が誇るホスピタリティに恵まれた2日間。参加者全員の若々しい笑顔のもと感謝の気持ちで「還暦修学旅行」を成功裏にお納めしました。

ミニ京都旅行

集合前のミニ京都旅行についても語りたい。池田和也君の音頭取りで行った「ミニ京都旅行」である。初日朝に京都入りした関東支部メンバー有志11名は受付までの時間、南禅寺、京都御所と足を延ばしました。チェックイン後、まずは昼食。目的地はスティーブ・ジョブズほか海外のアーティストにも人気の蕎麦屋「晦庵 河道屋」。内外観とも京都の町屋風情たっぷりの老舗で一緒にお蕎麦をゆったりと味わいました。

お腹を満たした後は蹴上インクライン経由で南禅寺へ移動。その格式高い名刹では石川五右衛門の「絶景かな、絶景かな」で有名な三門に登楼し、花咲き誇る古都のパノラマを堪能しました。

平成28年から通年公開の京都御所では、紫宸殿（ししんでん）、御学問所など古来の内裏の形態の建物外観に目を見張り、各所の解説案内に足を留めました。参加者それぞれが平安朝の文化などを改めて学ぶことができ楽しい思い出がまた一つ増えました。

大宴会場で“ハイチーズ”

まもなく大同窓会幹事

昭和61年卒　尋木浩司

昨年開催の大同窓会の際、関東組のメンバーの1人は悪天候の影響で福岡―羽田間を1往復半して合流するアクシデントがあったが、今年の大同窓会も台風19号の影響で残念ながら参加できなかったメンバーが散見された。しかしながら、大同窓会そのものは無事に開催され、多くの昭和61年卒のメンバーが集い昔話に花を咲かせたようだ。

今年の大同窓会の幹事学年は、我々の2期上の昭和59年卒の先輩方であった。我々が明善高校に新入生として入学した年の3年生の方々である。軽音部の先輩であった伊藤彰一先輩、島生先輩、佐野先輩、重松先輩、高尾先輩らとブリティッシュロックを中心としたロック談義や実演を通して密度の濃い時間を共有できたのは本当に懐かしい思い出である。特に伊藤彰一先輩、島生先輩からは、東京の大学に進学した後も大変お世話になり、上京直後の心細い時期を支えて頂いたのは本当に有り難かった。

また、我々が高校1年の時の大運動会の白組応援団の太鼓として応援団の屋台骨を支えられていた佐野先輩の後釜として同じドラマーであった自分が高校3年の白組応援団の太鼓を奏でたのも懐かしい思い出である。佐野先輩は、高校時代から卓越した実力のドラマーで

あったが、大学卒業後、プロドラマーとして活躍され、現在では日本を代表するドラマーとして「Drum Magazine」の表紙を飾っておられる。

今年の大同窓会も大変な盛り上がりだったようであるが、いよいよ再来年は、我々昭和61年卒が大同窓会の担当幹事である。今年の大同窓会時の同期の集まりの写真をLINEを通じて見させてもらったが、昔同様の元気な面々の楽しそうな顔が印象的である。担当幹事年度に備えて皆で頑張って準備を進めていきたいと思う。

53会還暦ツアー 久留米からも参加で43年ぶりの長野を満喫！

昭和53年卒　山嵜信明

「来年は還暦の歳やっけん、記念にみんなで還暦旅行ばするぜ」そんな声が関東同窓会の席で、一昨年の夏ごろからぽちぽち出始めた。真っ先に候補地にあがったのは、長野県。高校2年の冬、3泊4日で修学旅行に行ったところだった。みな異論はなかったが…。

実は、われわれ53年卒の修学旅行（1977年2月）は、〝いわくつき〟だった。京都・奈良というのが長年の伝統だったようであるが、そこでは夜間、生徒が宿泊施設を抜け出して出歩いたり、酒を飲むなどの悪さをしたりすると先生方には悪評だった。

そこでわれわれの代はテストケースとして、長野の志賀高原で3泊4日のスキー合宿になったのだ。一面雪に覆われたところなら、勝手に抜け出すこともなく、問題もなく管理できるだろうと――。

しかし、スキーだけというのも味気ないので、初日は長野市の善光寺、最終日は松本市の松本城を観光することになった。野球部の先輩たちから、「修学旅行のときでも、夜は素振りばせんといかん。オレたちも持っていったけん、お前たちもバットを持っていけ」などとチャカされながら、当時の国鉄久留米駅から夜行列車に乗り込んだことを思い出す。ところが、次の年から、修学旅行はもとの京都・奈良に戻ってしまう。全体的にスキー合宿は、生徒たちの間で不評だったのだ。

というわけなので、われわれはレアケースになってしまったが、それでもわれわれにとってはたった一回だけの修学旅行。その思い出の地の松本城と善光寺を42年ぶりに、昨年の6月8日（土）、9日（日）と一泊二日で訪れた。関東からは16人が参加したが、嬉しいことに、久留米の同窓会にも呼びかけたところ、地元からも女性2名が参加してくれた。

貸し切りバスをチャーターしての観光だった。当初は大型バスの予定だったが、思いのほか人数が少なかったために、中型のバスになるところだったのを、バス会社のご好意で、大型バスのまま。その代わり、「新人ガイドさん2名を研修で付けますが、いいですか?」と。十分であった。

初日は昼にJR松本駅に現地集合。「信州の味噌蔵」で観光と昼食をとった。続いて、「善光寺」を散策。修学旅行当時は、雪の中を参拝した記憶がある。最も驚いたのが、本堂の下の真っ暗闇の迷路を5分ほど歩いて行っていったときのこと。仲間の数人は、「昔も潜ったばい。覚えとる」と言っていたが、私はまったく覚えていなかった。その後は、温泉旅館に宿泊。酒を酌み交わしながら、夜中まで親交を深め合ったのだった。

二日目は、旅館で朝食を済ませて、「旧開智学校」を見学。水玉模様で知られる世界的な前衛芸術家の草間彌生の作品が展示されていた。午後3時半ごろ、再びJR松本駅で解散だったが、感動的だったのは、ガイドさんとのお別れであった。とりわけ女性陣は、わが子を見守るような思いでガイドさんを見守り、声をかけ続けていたが、ガイドさんも女性陣も涙、涙…。「頑張ってね！」「はい。頑張ります」と励ましていた。

それから、はや半年が過ぎたが、次回は台湾旅行の話も出てきている。あと何回、参加できるかわからないが、同窓生でできるだけ長く続けたいものだ。

黒鷺城こと松本城

ガイドさんとの別れ

2019年の再会

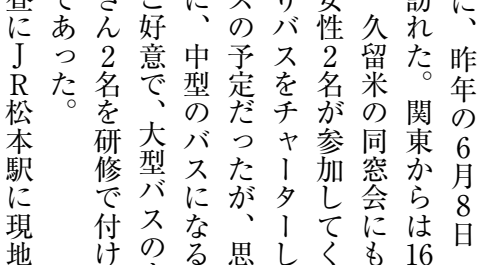
昭和56年卒　秋永佳世

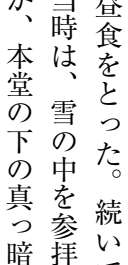
2019年の関東支部同窓会はいろいろな再会のきっかけになりました。東京在住の音楽部の後輩と再会、もしくは学年が重なっておらず初対面のご挨拶をしたのをきっかけに、6月30日に懇親会を持つことができました。その折には福岡からも後輩が駆けつけてくれ、卒業後の空白を飛び越えて大いに盛り上がりました。

また、久留米の大同窓会の当番年にアトラクションで一緒に歌った劇団四季の芝清道君が関東支部にも来てくれ、個人的には芝君がチェ・ゲバラ役を演じた「エヴィータ」を東京で観劇することができ、久留米ではシティプラザで12月12日に「エヴィータ」が上演され久留米の同窓会で大いに盛り上がったと聞きました。それから中高の同級生で卒業以来会ったことのなかった権藤三千蔵君も関東支部同窓会に来てくれて、職場の創立記念式典に歌いに行かせてもらったりしました。

11月3日には例年通りオペラシティリサイタルホールでコンサートを催し、先輩、後輩、同期とたくさんの方々にお出でいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。それがきっかけとなり今年1月15日新年会に同期で集まり、野中（池田）美由紀ちゃんのお世話でロシア料理を堪能しました。

このようにいろんなつながりのきっかけとなった2019年の関東支部の同窓会でした。今年の同窓会はどんな新たなつながりを作ってくれるのか今から楽しみにしています。


音楽部の仲間たちとの再会


アフタヌーンコンサート着物姿にて

海外おもしろ日本語

平成2年卒　米倉和宏

外国に行ったとき、皆さんはその国の料理を食べますか?せっかく行ったのだから、その国の美味しい料理を食べて帰りたいと思う方が多いことでしょう。しかし私は、ほとんど現地の料理を食べません。（笑）

年間14～15回、仕事で外国（主にアジア圏）に行きます。中国、インドネシア、タイがほとんどですが、現地での食事は殆どがジャパニーズ、コリアン、イタリアンを食べます。それはなぜか?

海外ではまず、水にはかなりの神経を使います。特に暑い地域に行くと、怖いのは氷です。どんな水を使っているかわからないのでかなりの確率でやられます。なので、レストランで飲み物を頼むときは、暑くてもホット系の飲み物か、もしくは、ビールです。（笑）海外でランチにビールを飲む光景を見かけても、不謹慎と思わないで下さい、これが安全な方法なのです。ビールを頼んでも、たまに氷を入れて持ってくる不届きな店もありますが…。

食事はというと、現地の味付けは、私の舌に合わないことが多いのです。例えばインドネシアでは、しょっぱい味を嫌い、甘い味を好む人が多く、現地に進出した日本料理の店は、最初にその味付けに悩むことになります。

最近では、日本資本の店も増えて、食べるものには困りません。しかし、中には、中国や他国資本の日本料理店もあり、そこでは、面白い日本語が蔓延っています。写真のメニューは、とある寿司屋のメニュー表。こんなことは日常茶飯事です。

もっともっと、日本の飲食店には、海外に進出してほしい。その時には、少しはローカライズすることも重要であるが、日本の味を求めていく日本人の為に、日本での味も、メニューに残してほしいと思うのは、海外で働く日本人の願いだと思います。

とある寿司屋のメニュー表

平成元年卒便り

平成元年卒　原　長亮

皆さん、こんにちは。今回は同期の仲間への掲示板として会報の一部を使わせていただきます。

私たちは平成卒世代の例に漏れず、高校の同期を通じた繋がりが希薄になってしまってきています。毎年、総会で先輩年次の皆さんが楽しく談笑され、同期で旅行に出掛ける相談をされていたり、元気よく二次会に向かっておられたりするご様子を拝見するにつけ、少し羨ましく感じています。

私たちの同期は来年度中に50歳を迎える世代で、仕事や子育て、様々なお付き合いなどがあり、正直言ってなかなか自分だけの時間を持つことが難しい時期ではあります。しかし、先輩方も多く同期が集まる機会を作るのは簡単ではないでしょうし、私たちもそうした時期だからこそ、たまには高校同期で集まって近況について語り合ったり、定年後に一緒に旅行に行く話に花を咲かせたりしたいという気持ちが年々強くなってきました。

この掲示板を読んでいただいた平成元年卒の皆さん、是非一度連絡をいただけませんか?また、今も連絡を取り合っている仲間にも声を掛けていただけませんか?無理なく楽しく参加し合える場を持ち合い、これから先まだまだ長い人生に備えていきませんか?（笑）

私たち平成元年卒だけでなく、後輩の皆さんも似たり寄ったりのことも少なくないでしょうから、それぞれの学年で連絡を取り合ってみては如何でしょうか?先輩たちを見ていて、大人になって仕事や子供、地域と全く関係なく、しかもフラットな関係で楽しい時間を過ごせる場として、高校同期会はうってつけの場だと感じています。

最後に、こうした伝言板的な原稿をご了承いただいた会長・幹事・会報ご担当の先輩方、ありがとうございました。

【平成元年卒連絡先】
・電話：090-6503-7904
・メール：hisakatsu-hara@docomo.ne.jp

✦昭和48年卒特集✦

◆明善高校出身の誇りと感謝

昭和48年卒　加賀譲治

明善高校を卒業して、気付いてみたら私共の学年が今年度65歳となり、昭和、平成、令和とすでに半世紀程経っていることに驚いています。昭和48年卒の執筆者として私が適任とは思えませんが、私個人の状況と感想でよろしければということでお引き受けしました。

世間の通常であれば65歳は定年退職する年齢ですが、私は、現在、創価大学法学部の教授、法科大学院長をしております（ただし、この会報が出るころには法科大学院長は降りています）。私の定年は70歳ですので、もうしばらくは教壇に立つことになりそうです。専門科目は、商法・会社法・証券法です。私の好みでいけば、歴史学を専門にしたかったというのが正直な感想ですが、人生は、偶然といいましょうか、ついこのような一般には親しみのない科目を専門にすることになってしまいました。思い通りの仕事や職務を実現できる人生の人は、むしろ少ないのでしょう。しかし、大学では常に18歳から23歳位の若者と一緒に学問できるのですから、私は実に幸せな仕事に就いたというべきでしょう。

さて、私共の母校、福岡県立明善高校は、じつに不思議な高校だと思うときがあります。明善のことを、なんだかよく知っている方が多いのです。私は創価大学に進学し教員となりましたので、とくにこの感が強い。創価大学はあまり知られていなくても（今年のお正月の箱根駅伝でシード権が獲れて少し有名になりましたが）、様々な方に「福岡県の明善高校の卒業です」と自己紹介すると、「優秀な高校ですね」と言われます。「明善」という言い方だけでも通用する場合があります。私が身をおく大学界では全国の各高校の校風や偏差値等が知られているのは当然ですが、大学関係者でなくとも、なぜか明善高校は割合よく知られています。現在、私は文部科学省中央教育審議会の法科大学院等特別委員会委員を務めており、委員間で話すときも「明善」と言えば、それだけで一目置かれる感じがします。卒業生の皆さん、間違いなく「明善」は全国区の有名校です。誇っていいと思います。200年を超す伝統校だからだけではないのでしょう。これまでの卒業生の先輩方の努力と成果が明善高校の名を馳せる要因であると、心から感謝している次第です。

学校が日本社会で高い評価を得るには、相当な年数がかかります。100年位は必要でしょう。私は、高校は有名校、大学は新設校という経歴でしたので、明善高校出身のおかげで、出身大学を認めていただくこともありました。もちろん一般には有名人になる人が出てくる学校が有名になることも多いのですが、無名ではあっても地道に社会に貢献し、周囲からその見識の高さや生き方の高潔さを評価されるという卒業生こそが母校の評価を高めることになるのでしょう。これからも、明善出身の名に恥じないように頑張ってまいりたいと思います。

◆5年間の休暇

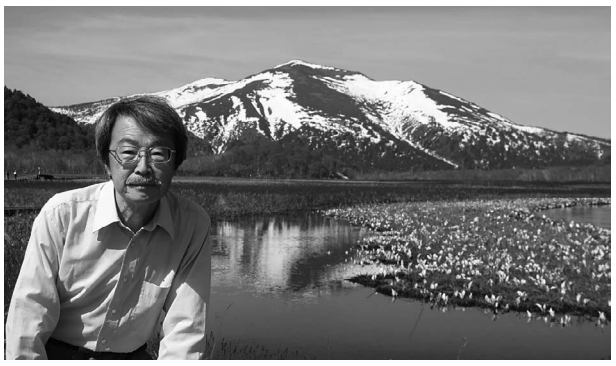
昭和48年卒　遠藤栄一

再雇用は希望せず、２０１５年3月末に60歳で定年退職した。学生時代の夏休み（2ヵ月）以来の待ちに待った長期休暇の到来である。

当初1年程度は元の仕事を引きずったりもしていた。しかしその後は、退職時に立てた目標、五つの外国語検定試験の1レベルアップ、を目指すほか、海外及び国内旅行、ウォーキングや山歩きを楽しみながら、5年近くを過ごしたことになる。カルチャーセンターや1ヵ月の短期留学を経験しながら、スペイン語は4級に、ドイツ語もようやく2級に合格できた。交友関係が広がったのが何よりの成果と言える。来年度からは次の目標、ロシア語に再挑戦するつもりでいる。

気ままな個人旅行で行く海外は12ヵ国を加えて、これまでの訪問国は60ヵ国近くになった。長期旅行も、といっても3週間程度までであるが、何度か実行した（ブラジルなど）。自分で立てた計画が首尾よく実現できると、達成感もひとしおである（例えばガラパゴス諸島9日間）。国内も、小笠原や隠岐など、離島を中心に新たな旅先を開拓している。

自宅近くの江戸川土手のウォーキングはすぐに飽きてしまい、熊野古道中辺路を経て、晴れれば百、二百、花百を目指す、名山主体の山歩きになった。登山口まで公共交通機関で行け、雑魚寝の小屋泊まりなしに往復が可能なところを手始めに歩いていく。標高差１５００m、コースタイム7時間半の白山あたりが今の限界である。九重や尾瀬のようなところもあれば、新たに、これまで何度も訪れたところも30座以上になる。



道を歩いている。一日20㎞以下、4～5時間のペースであるが、延べ30日くらいで日本橋から京三条大橋までを完歩できそうである。いまは雄大な富士山を堪能している。

65歳男性の平均余命は１９．７０年、健康でない期間が8．８４年あることを考えると、あと10年くらいという計算ができる。徐々に軟着陸することを考えながら、博物館、美術館巡りなども併せて、残りの長期休暇を謳歌したい。

◆65歳　我が道を振り返り

昭和48年卒　津福一成

私には7つ年上の兄がいる。明善バドミントン部インターハイにも出た。私も兄に小学生の頃から石橋文化センター体育館でバドミントンを習い、明善でバドミントンをやりたいと思っていた。

高校受験、仲のいい友人が3人いた。全員附設と明善に合格した。大学受験は附設が有利、明善でバドミントンと思っていたので、3月のある日、家族会議で明善に行きたいと親に訴えた。抵抗があった。兄が浪人して立教にいったので、明善に行くならクラブには入らず現役を目指す条件で許可がでた。翌朝、中学の担任に明善に行きたいので資料を変更してほしいと依頼した。明善に行く仲間は、お前は附設じゃないとか と驚きながら、明善入学を歓迎してくれた。ただ明善では残念ながらバドミントン部には入れなかった。我々の年代は現役より浪人が多く、卒業したら時習館が定番だった。

現役で進学し、その分1年間休学し海外に行こうと思っていた。運よく慶應の推薦、現役で入学できた。（附設にいった3人は全員浪人した）いざ東京に来ると学生運動の末期、慶應もスト、大学にはバリケード、2年生は学年末試験が実施なかった。麻雀没頭の先輩たちは交代で大学を見に行き、バリケードが撤去されていると明日試験かと焦り、翌朝登校するとまたバリケードという繰り返しだった。創立以来、初めて入学式がない学年だった。バドミントンサークルに入ろうとスチューデントカウンセラーに相談したがサークルはないとのこと、クラス仲間に声をかけ「クリアバドミントン同好会」を設立した。2年目には東大と一橋にバドミントンサークルができ、関東バドミントン好会連盟（ＫＢＡ）を設立、最終的には東大、ＩＣＵ、一橋・津田塾、慶應・共立女子大という4サークル6大学の連盟となり、現在も続く。クリアバドミントンは一昨年45周年を迎え、明善ではバドミントン部には入れなかったが、バドミントンを通じていい仲間に出会うことができた。今でも月2回練習、年2回温泉合宿、秋のＫＢＡ・ＯＢ・ＯＧ大会と楽しんでいる。

3年生終了後1年間休学し独立200年祭に沸くアメリカに念願叶い遊学した。最初の2カ月はグレイハウンドバスでアメリカ・カナダを旅した。ロサンゼルスからグランドキャニオンを通り、最初にフロリダの最南端キーウエストを目指した。バスでは英会話の練習と思いアメリカ人の隣に座り話かけ、ニューオリンズの近くでフィリピン系アメリカ人の隣に、どこに行くかと聞くのでキーウエストと答えると、「おれはそこに住んでいる。着いたら連絡しろ」と電話番号をくれた。数日後キーウエストに着き、勝手の違う電話に苦労しやっとのことで繋がった。電話の先は妹さん「兄は明日帰ってくるので、今夜は家に泊まっていきなさい」と迎えに来てくれた。たまたまバスで隣に座った人の妹さん家に泊まり、アメリカの生活などを教えてもらった。こんな感じで2カ月旅、週に一度位は知らない人の家に泊めてもらった。

旅を終えお金がなくなり働こうと思い、兄がアメリカにいたときの知人に連絡してみた。ロサンゼルス近郊のパサデナの住所に行ってみると、その日本人はもういない。管理人に行き先を聞くとここかもと住所をもらい、バスを乗り継ぎ行ってみた。そこにも住んでなく、尋ねると半年位前まで住んでいたと、また次の住所に行ってみた。やっと兄の知人に会えたが、彼は10年アメリカに住み、日本の良さが目に浮かび、一方日本に戻るとアメリカの雄大さに憧れると中途半端な生き方だった。彼はハウスクリーニングの仕事をしていた。1週間休みなく仕事、夜になると仲間とマリファナパーティ、もう仕事なんかしないと喚きちらし、朝になるとまた車で仕事に出かける状態だった。1カ月後に日本に帰ると言うので、私がその間見習いをし、車と道具と優良クライアントを引き継ぐことにした。車と道具を500ドルで引き取り、彼を空港に送る途中で車が故障、フリーウェイを下り近くの修理場に行った。彼はタクシーで空港に向かい、私は修理代を払ったら手元には10ドルしかない。クライアントの家に仕事にいくと小切手が置いてあったことに感激した。午前中20ドル、午後30ドルと、病気さえせず働きさえすれば食べていけると思った。あれから40数年、風邪もひくがひどくせずこれまで病欠はない。半年ほど働きお金も少し貯まったので、おふくろとおばさんをアメリカに呼び1週間ほどヨセミテやラスベガスなどを案内した。

次の2カ月はミルウォーキーで知り合った方の家にホームステイした。年配の男性2人で住み子供のようにかわいがってもらった。最後の2カ月はオレゴン州ユージーンでレーンコミュニティカレッジのウイン

ター・タームに入学した。アメリカ人は100ドルなのに留学生は700ドル。お金もないので、そうだアメリカ人で入学しようと思いついた。アメリカではドライバーライセンスとソーシャルセキュリティカードが身分証明、仕事で両方手にしていた。英語は話せないので、聞かれたら「アメリカで生まれ、3歳の時に日本に渡り、昨年アメリカに戻ってきたので、まだ英語は話せない」と言おうと思った。受付がクリスマス時期でバタバタしており「Are you American?」と聞かれ、「Sure I'm American」と答えたら見事アメリカ人として入学できた。みんなやっているかと思い、留学生に聞いたら全員700ドル払っていた。

　無事帰国し、就職は大手に行く気はなく色々経験できそうなところを探した。松坂屋の前にGen's という輸入商品販売会社がありアメリカでこれが日本にあるといいと思っていたものを揃えていた。面接に行くと「大手もあるだろうがうちでよければ入社するか」と社長に言われ、2年間修業しようとお世話になることにした。秋口から土日はお店で手伝った。アメリカでAppleというパソコンが発売され、クリスマスに展示するので説明しろと言われ、にわか知識で説明した。多分日本で初めてのAppleだったと思うが、大学の教授たちが多数訪れ説明した。

　就職すると休みは取りにくいと思い、2月後半から仲間とスキー、久留米に帰ったりした。3月3日に会社に電話をしたが繋がらない。年中無休なのにおかしい、銀座でアルバイト中の姉に会社を見てきてと頼んだ。姉から電話、「一成くん大変よ。会社がない」と。後でわかった、Gen'sは表の顔で、裏では中古のブルドーザーなど建設機械を海外に輸出していた。世界的にはキャタピラー社のシェアが高いが、日本では競争が激しくコマツなどが国内向けに特別価格で販売していたものを、機械番号を消し中東などに違法輸出し、FBIから摘発され倒産したとのこと。

　結局、同期の入社式の日は、ICUの体育館でバドミントンをしていた。

　社会に出たら営業をしようと思い、一番厳しい仕事を経験しようと探したとき、アメリカのキッチン用品の輸入販売会社の社長がうちの営業が一番難しいと言った。一般には車や保険の営業が厳しいと言われるが、その会社では鍋と包丁のセットを24万円で販売していた。50年保証と物はよいが、大卒初任給が12万円の時代、2倍のキッチンセットだった。一番難しい営業なら1年間勤めたいというと、普通新卒は2～3年してやっと一人前になるのに、就活で1年間勤めるという学生はいない。でも面白いのでやってみたらということで、1日50件～100件の飛び込み営業、飛ばさず回れと言われた。いい家の住人は住宅ローンで生活の余裕がなく、ここはどうかと思う家はより良いものに興味を持ってくれるので、なるほどと思った。実績を上げ、翌年転職したが、営業の基礎を教えてもらった。翌年は低周波治療器の業種展開で月25日出張した。鉄工所向けの鋼材屋、農家向け農機具販売、配置薬などユーザを持つ企業に同行して回った。翌年は千葉の直販部隊作りに参画し、半年後には社員10人の営業所長になった。

カナダ・ジャスパーにて

　3年間、自分なりに営業経験を積み、1981年4月からパーソナルメディアという大学の同期たちがいるソフトメーカーから営業の責任者に請われ黎明期のパソコン業界に入った。半年で北海道から九州までNECマイコンショップを中心に販売網を築いたころ、孫正義さんが日本ソフトバンクというソフトの流通会社を作るのでソフトを卸してほしいと訪ねてきた。孫さんは同郷だし一緒に頑張りましょうと握手したが、今や利益が1兆円になっている。

　色々経験し13年後、有名な財務会計ソフトを開発するミルキーウェイ社に転職した。1年半後、外資に買収され初めて外資のビジネスモデルを経験、その後1997年ピクシス情報技術研究所に転職した。この頃SFA（Sales Force Automation）という営業支援の仕組みが日本に紹介され、1年間で営業に必要な24個のデータベースを開発した。自分で経験した案件型やルート型の営業スタイルの仕組みを実装し、ピクシスSFAを完成させた。その後サービス系の要件を追加しピクシスCRMとし、グループウェアLotus Notesの上で発売した。この環境ではTOPシェアとなり様々な業種の中堅・大手企業で導入された。最大のクライアントは東京三菱銀行で500拠点5000人という日本で最大級のCRM/SFAを導入。東京三菱銀行には日本IBMから毎月400～500名のSEが派遣されていた。全行で使うシステムを外部が受注することはありえないと言われたが、製品内容に共感され取引のないピクシスが受注した。銀行の要件定義は異常で、朝9時から会議室に籠りきりで打合せ、夜中の2時頃までの繰り返し。3カ月位プロジェクトメンバーとほとんどの時間を一緒に過ごし、今でも再会するとあの時の異常さで盛り上がる。ピクシスでの10年が立ち、CRM/SFA事業をコムチュアに譲渡することになり、丸ごと転籍した。コムチュアCRMパックという新しいバージョンも出し、さらに次のインフラSalesforceというクラウド上でパッケージ化した。

　コムチュアで7年が立ち、最後は自分でやろうと59歳の時起業し、念願の株式会社クリアを設立した。クリアでは特長はあるが伸び悩んでいる中堅・中小企業を中心に業績達成のためのCRM/SFAを支援している。Salesforceはシステムはよいがライセンスが高いと言われ、クリアでは独自の日本型CRM/SFAをベースに構築するので通常ライセンスの1/6の費用で活用でき、費用対効果も上げている。久留米のクライアントも数社ご支援し、毎月久留米への出張を楽しんでいる。

　4年間で売上が1.8倍に、33年間連続増収という日本で5社位しかない会社の営業の型を実装した。HPに事例を挙げているのでぜひ「クリア　津福」で検索しご参照ください。久留米では以前はホテルエスプリに泊まっていたが、最近は六ツ門に改装したグリーンリッチに、広々とした天然温泉で疲れを癒している。

　カーネルサンダーは65歳で財産を無くし、ケンタッキーフライドチキンのレシピと圧力釜をトラックに積んで、全米で数百社を回り、KFCを作り、フランチャイズビジネスの父を呼ばれる成功をおさめ、90歳で逝去した。私もやっとカーネルの年になり、これから10年を人生で一番わくわくする時代にすべく頑張っていきたいと思っている。

リタイア後…

昭和43年卒　山下政晴

「人生七十古来希なり」と言われていたが昔のこと、今では普通となった。私も昨年70歳に、周りから見れば70過ぎの「ただのじいさん」だが、70歳になったという自覚はなく、精神的にはまだ青年のつもりだ。とは言っても、衰える体力は如何ともし難く「やっぱり年とったんだなあ」と思う今日この頃。最近電車の中で「どうぞ」と席を譲られたことが2回もあった。よほど年寄りに見えたのでしょうねえ、確かに禿げてはいないがほぼ全面白髪。62歳でリタイア後、「毎日が日曜日」を謳歌し遊びまくるつもりで飲み会、遊びの会、趣味の会等あちこちの○○会に積極的に参加し、最近では20近くになってしまった。以前は「500円飲み放題」が多かったが、最近は「量より質」、酒食の量は年と共に減ってきた。飲み会では次の4つの話題で盛り上がる。1健康　2年金等生活資金　3孫　4親の介護。

　健康面では私も糖尿病とコレステロールの薬を毎日飲んでいる。某週刊誌には「医者が処方した薬を飲み続けると寿命が縮まる」とか、「内視鏡検査、脳ドック等健康診断を受けるのは金の無駄遣い」とか、そうだろうかと思いながら疑問を持ったまま毎日薬を飲み、毎年健康診断を受けている。又体力の衰えにも拘わらず登山、ゴルフ、スキー等アウトドア活動に勤しんでいる。登山は高い山では毎年春、秋に穂高に登っていたが、最近はめまいが出ることがあり、又足下のバランス感覚が悪くなり3,000m級の岩場のある山はやめることにした。3年前、北穂高登山中に下山途中のお嬢さんから「まあ、お元気ですねえ！」と半ば驚きの目で見られたことがあった。周りから見ると相当年寄に見えるのであろうと自覚した。毎年、春（43年卒同期会）と秋（大同窓会）に福岡に帰り、2人の兄達と九州の山々に登るのが恒例、久住、由布岳、霧島、開聞岳等に登っている。又5年前スキーをゼロから始めた。スキー板を初めて履き「こんなもん、すぐにうまくなるやろう」と高をくくっていたがなかなかうまくならない。あと20～30年早かったらなあ…と思いながら緩斜面をちんたら滑っている。「年寄の冷や水」と嘲笑されながらも北海道、志賀高原、安比、野沢、尾瀬岩鞍等に行っている。元の会社の熟年スキー仲間の「白銀会」、元スキー部等熟練者ばかり、私も初心者ながら参加した。15名のメンバーの中、一番下手クソ、又一番若いので幹事も。82歳の最長老から「直滑降・斜滑降・おまえの場合は不格好」と冷やかされながらも楽しんでいる。ゴルフは「下手の横好き」年30回くらい、上達する訳でもなくスコアは99止まり。外出する機会も多く、家内は私がどこに行って何をするのかには全く興味無く、「ところで今日の夕食家で食べるの？」と夕食の要／不要が一番の関心事。この年になっても「亭主元気で留守がいい」と言うことでしょうか…

　生活資金の話では、相手によって余裕のある人、そうでない人千差万別。境遇が同じであれば「同類相哀れむ」で話も弾むが、相手によっては深く立ち入らないし、逆に立ち入ってもらいたくはないですね。上を見ればきりがないし、下を見てもきりがない。高望みしても仕方無く、「現在の境遇で満足」と思う他はない。

　孫の話では「孫がいる？　いない？　男？　女？　年齢は？　どこに住んでいる？」と話は弾むが、時に孫の自慢話を滔々とする親馬鹿ならぬ「じじ馬鹿」がいる。当然スマホには孫の写真がこれでもかというくらい沢山「ほら見ろ、俺の孫可愛いだろ！」と無理に見せられるのは如何なものか？　孫のいない人にとっ

ては迷惑千万、どうでもいい話。

親の介護は今や「老々介護」、90越えた老親が郷里で1人住まい定期的に様子見に帰ると言う人、或いは在宅介護で苦労してる人、私の周りにも沢山いる。こちらが元気なうちはいいが…我々同期生600人のうち50人が既に鬼籍に入った。残された人生、あと何年持つかわからないが、体力・気力・資力が続く限り、アウトドアライフ等対外活動を楽しみながら続けるつもりだ。

総会を振り返って

平成3年卒　田嶋ひとみ

新緑鮮やかな皐月に開催しております関東支部総会、今回は「令和」となって初めての記念すべき開催となりました。この記念総会に180名もの方々にご参加いただき本当にありがとうございました。幹事一同、充実感、達成感を十分に感じることができました。総会の準備では幹事会をはじめたくさんの先輩方にご支援いただきました。改めて御礼申し上げます。

総会テーマは「次世代につなぐ明善聖火」、新しい時代を担う学生にスポットを当て企画したところ、たくさんの学生たちも参加してくれて、世代を超えた明善生のつながりができたのではないかと思います。もちろん私自身も総会準備を通して、たくさんの明善生とのつながりができました。

本年度の総会においては、関東支部の新会長に井上樹彦様が選任され、瀬戸会長から井上会長に本会が引き継がれました。瀬戸前会長におかれましては、長きに渡って本会を牽引して来られたご功労に敬意を表します。誠にお疲れ様でございました。井上新会長におかれましては、関東支部会長への就任、心よりお慶び申し上げます。明善高校並びに本会の発展のためにお力添えのほどよろしくお願いします。

総会後の懇親会では、協賛品の抽選会や学生一人ひとりのアピールタイムで盛り上がりました。また2020東京オリンピックに向け、スポーツクライミングの代表入りを目指す緒方良行君（神奈川大学）からのメッセージビデオを上映し、皆で応援しました。その後、緒方君は、6月にアメリカ・ヴェイルで行われたボルダリングワールドカップ最終戦で初優勝し、年間世界ランキングでは3位に入りました。緒方君の努力のたまものであることは言うまでもありませんが、明善生の熱い応援も成果につながったのだと思っています。さらに在校生を含む若い世代にもいい刺激となったことと思います。

総会の幹事を終え、来年度の幹事を平成4年卒に引継ぎましたが、来年度も素晴らしい総会が開催でき、明善生の絆が一層深まりますようご協力をお願いしたいと思います。

第34回関東支部総会へむけて

総会実行委員　平成4年卒　山本竜二

本年の明善同窓会関東支部総会は平成4年卒が務めさせていただきます。200名前後の卒業生が集まるイベントの実行委員などやったこともなく不安の気持ちしかないのですが精一杯努めてまいりますのでよろしくおねがいします。

今年の実行委員会が立ち上がってまずやったことはもらう場としての飲み会、その後は先輩方から引継ぎ事項を教えてもらう送別会を兼ねての飲み会と、すでに4回の会合を重ねております。オンラインでのディスカッションでもオフラインでの飲みニュケーションでも、活発な議論が進んでおりメンバーの熱いやる気を感じさせます。どういうコンセプトの総会にするのか?どういったやり方で参加者の交流を促進させるのか?記念品は?いただいた大事な協賛品はどのように活用するのか?などなど。議論すべき事はつきません。

そんなカンカンガクガクとした議論を通じて今回の総会で大事にすべきコンセプトが2つだけ見えてきました。一つは来場者の懇親を大事にするということ。一つは参加者の懇親を大事にするということです。昨年は一つ上の先輩方が「次世代につなぐ明善聖火」というテーマのもと若い世代の同窓生に参加してもらえるような同窓会を企画されました。今年はその流れを踏襲しつつ、さらに新しい参加者が来場するような同窓会にしたいと思います。特に若者と女性は今まではあまり参加者が少ない傾向にありましたので、積極的に参加者が増えるような施策を実行できればと考えております。

博多やまやにて

仲間と理想の同窓会を議論することはありますが、そこで出てくる考えを机上の空論にお わらせることなく、きちんと実行することが一番大事です。その実行の部分が一番不安なのですが、そこは先輩方の助言をいただきならが、準備を進めてまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

第12回秋明交流戦を開催

明球会広報担当　昭和51年卒　内田直人

共に野球部創部122年の明善高校、秋田高校の野球部対抗戦「秋明交流戦」を11月9日（土）晩秋快晴の下、東京海上日動総合グランド野球場（八王子市）で行った。両校野球部が創部100年を機に明善・別府（S41）、秋高・小玉が交流を始め、平成20年に初戦、現在明善2勝9敗。挽回すべく久保田監督の下　明善球児20名、田嶋マネージャ、関東同窓会井上会長が集った。秋高は甲子園出場県内最多24回を誇り、今回も甲子園経験者が多数の強豪チーム、対する明善も今年から若手20代の出場が増えチームも若返り期待も高まる。

明善先攻、打順は若手順全選手が出場、1番から6番までが20代。前半5回まで二塁打など6安打で出塁するも併殺2回など決定打に欠き無得点が続く。明善先発は中島、強力秋田打線を軟硬織り交ぜた投球でかわすも2回につかまり四球と3連打で5点を失う。4回にも2点追加され、前半7対0で折り返す。明善は後半7回下位往年打線が奮起し、船越（S60）、内田の連続安打、その後上位打線に戻り2番中島の安打で初得点、さらに4番足立（H22）の右翼へ3点本塁打で一気5点、7対5まで迫る。秋田投手も鋭いサイドスロー針金投手、往年の小玉投手、高原投手にリレー。4点差で明善最終回、久光、植田（共にS62）、上位塚本の3連打などで2得点、二死一二塁内田（愚息）の鋭い3塁ライナーを秋田の超好守備でゲームセット。11対7、残念ながら一歩及ばなかった。

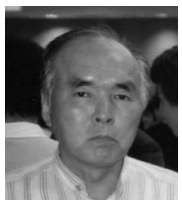
延長戦は調布市の宴会場で両校選手に加え、明球会酒見会長が久留米から参戦し入乱れた乱酒戦となり互角の戦いをした。1991年甲子園出場の秋田高校菅原選手が、その年優勝の大阪桐蔭高校との三回戦、9回二死までリードするも同点にされ延長11回3対4で惜敗した苦い思い出を語った。最後は両校応援歌で締めくくり来年の対戦を誓い合った。3年後の第15回交流戦は明善高校が秋田高校本拠地に乗り込むことを決議した。

訃報

関東支部で長年にわたり副会長、会報委員長としてご活躍いただいた妹川徳太郎さん（昭和29年卒）が昨年十月、八十三歳で亡くなりました。

明善から早大政経学部、東洋経済新報社へ、編集局次長、論説委員など要職を務められました。得意の文筆活動で支部会報の記事の執筆はもとより全体の編集についても毎号熱心に取り組んでいただきました。

また、1995年退職後、冊子「明善OB群像　多士済々の人材輩出」として、明善出身者の中で、関東で活躍する方々を職業別に調査、取材され卒業生の活動記録としても貴重な資料を残されました。今現役で活躍中の税理士M氏や歌手Aさんの名前もあり取材の深さに驚かされました。ご冥福をお祈りします。



2001年総会にて

関東支部ゴルフ大会開催する

ゴルフ委員長　昭和43年卒　山下政晴

第19回関東支部ゴルフ大会を2019年4月20日（土）葉山国際CCにて開催した。幹事は前回優勝の嶋田さん（44年卒）参加者は38年卒から60年卒までの15名（内女性2名）初参加は今村直樹さん（38年卒）、中野孝一さん（44年卒）、三浦嘉子さん（51年卒）の3人でした。平均年齢は約64歳とやはり熟年組が多いですね。15名の平均グロスは98.6（86～117）平均ネットは77.7　優勝はネット67の今村さんでしたが、初参加の為優勝資格はなく、準優勝となり、山口裕三さん（55年）がネット68で繰り上げ優勝となり、優勝賞金とゴルフ場提供のゴルフバッグを獲得した。ベストグロスは86で本田匡史さん。若い同窓生（20代、30代、40代…）の参加を切に期待しております。

第20回大会は9月25日（水）茨城県の「サミットゴルフクラブ」にて開催した。「明善ゴルフは雨！」のジンクスを覆す秋晴れの好天に恵まれた。幹事は前回優勝の山口裕三さん（55年）で準備段階から当日の運営まで完璧でした。幹事疲れのためかBBで次回の副幹事ということに。平日にもかかわらず19名の参加で（内女性2名）初参加は堤秀俊さん（43年）、緒方宏俊さん（55年）。19名の平均グロスは99.5（84～126）優勝はネット69で友池さん（51年）ベストグロスは平安さん（61年）の84。参加賞は久留米ラーメン「久留米っ娘」。次回コンペは2020年5月23日（土）、御殿場ゴルフ倶楽部奮って参加願います。

編集後記　令和最初の年、関東支部総会、野球部秋明対抗戦、共に若手の参加が増え賑やかだったとの報告。またラグビーワールドカップの年、若き日のラグビーの思い出など楽しい記事。「実質定年65歳」特集始めて3年目、今年の48年卒特集では早々リタイヤ、現役継続など人それぞれ、人生を振り返り元気になる話がたくさん語られた。また記念の還暦、古希を迎えた思い出話題も寄せられた。瀬戸会長から井上会長にバトンタッチされ、若手がもっと参加したくなる支部同窓会づくりに期待したい。（内田）